

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
----	------	----	--------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきざいだんほうじん うめわかかい		団体ウェブサイトURL
	公益財団法人 梅若会		https://umewaka.org/
代表者職・氏名	代表理事 梅若 善政(芸名:実桜雪)		
制作団体所在地	〒 164-0003	最寄り駅(バス停)	JR東中野駅
	東京都中野区東中野2-6-14		
電話番号	03-3363-7748		
ふりがな 公演団体名	こうえきざいだんほうじん うめわかかい		団体ウェブサイトURL
	公益財団法人 梅若会		https://umewaka.org/
代表者職・氏名	代表理事 梅若 善政(芸名:実桜雪)		
公演団体所在地	〒 164-0003	最寄り駅(バス停)	JR東中野駅
	東京都中野区東中野2-6-14		
制作団体 設立年月	昭和36年10月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	代表理事:梅若善政(芸名 桜雪) 常務理事:梅若靖記(芸名 長左衛門) 監事:宮内威 理事 10名 評議員 10名	団体構成員:個人(能楽師):正会員27名・準会員22名 主な構成員:梅若善政(芸名 桜雪) 加入条件:能楽の所定の免状取得および代表理事の承認	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	事務局長 山本祥一
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	事務局長 山本祥一
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	umewakakai.piif@gmail.com		

<p>制作団体沿革</p>	<p>1. 歴史:猿楽の発祥の地とも言われている丹波地方において、平安時代の末期より鎌倉時代の初期に職業的猿楽師の団体があり、その中で丹波猿楽梅若の名が文献に出てきたのは、応永23年(1416年)3月9日の条に【仙洞に猿楽あり梅若仕る】と看聞御記に初めて出てきます。梅若家の系譜は奈良朝の橘諸兄に始まり、現梅若家当主四世梅若実(本名:善政)は橘諸兄から計算すると五十六代となります。四世梅若実の曾祖父である初代梅若実(1828～1909)は、明治維新で幕府や大名家の保護を失った能の再興に尽力し、現在の能楽界の礎を築きました。昭和36年、五十五世梅若六郎が現在の中野区東中野に我が国唯一の能楽教習の場として梅若能楽学院を開校、同時に財団法人の設立をしました。設立当初より自主公演の定期開催と国内外の能楽公演等を中心に能楽普及振興のため精力的に活動しています。</p> <p>2. 設立目的:当法人は、我が国固有の伝統芸能である能楽の普及振興及び人材育成を図るため、能楽の公演及び伎芸の伝承・継承と法人が所有する能舞台(梅若能楽学院会館)の貸与を広く一般へ行い、もって我が国芸術文化の向上発展に寄与することを目的としています。</p> <p>3. 略歴:昭和36年(1961年)8月5日梅若能楽学院会館竣工披露能開催・同年8月6日梅若能楽学院開校式、初代校長岩倉具栄・同年10月25日財団法人認可・平成26年(2014年)4月公益財団法人移行認定</p>		
<p>学校等における公演実績</p>	<p>1. 令和3年度:文化芸術による子供育成総合事業 狂言「柿山伏」・能「殺生石」上演 ・福島県会津美里町立宮川小学校・福島県伊達市立伊達東小学校・福島県二本松市立油井小学校・埼玉県蕨市立第二中学校・栃木県立佐野高等学校附属中学校・埼玉県加須市立大利根中学校(2回公演)・栃木県那須塩原市立箒根中学校・埼玉県朝霞市立朝霞第四小学校・埼玉県幸手市立行幸小学校・福島県田村市立船引中学校・福島県いわき市立汐見が丘小学校・福島県伊達市立伊達東小学校 以上12校</p> <p>2. 令和2年度:文化芸術による子供の育成事業において狂言「柿山伏」・能「殺生石」上演(新型コロナウイルス感染症の影響により1校のみ開催) ・神奈川県大和市立下福田中学校</p> <p>3. 令和元年度:文化芸術による子供の育成事業において狂言「柿山伏」・能「殺生石」上演 ・三重県名張市立美旗小学校・三重県松阪市立大河内小学校・滋賀県湖南市立善提寺小学校・滋賀県甲賀市立伴谷小学校・和歌山県橋本市立境原小学校・和歌山県紀の川市立調月小学校・和歌山県海南市立黒江小学校・和歌山県有田市立保田小学校・和歌山県上富田町立上富田中学校・奈良県香芝市立鎌田小学校・奈良県大淀町立大淀中学校・奈良県葛城市立新庄中学校</p> <p>4. その他:学生能楽鑑賞会:福岡県下の4～5校に実施。(昭和58年より毎年継続して行われている高校生対象のレクチャー、鑑賞会)・海外留学生のための能体験英語ワークショップ・子供のための伝統文化体験事業実施。・中野区の小学校や中学校におけるワークショップ等多数</p>		
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>特にありませんが特別養護老人ホームの訪問はあります。</p>		
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>	
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://dtbn.jp/FTXbboWR</p>	
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	<p>無し</p>
		<p>PW:</p>	<p>無し</p>

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 公益財団法人 梅若会 】

対象	小学生(低学年)	○	/		
	小学生(中学年)	○			
	小学生(高学年)	○			
	中学生	○			
企画名	日本の伝統文化「能楽」をたのしもうー650年以上続くおもしろさって何？ー				
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>1, ご挨拶 能楽のはじまりは「あいさつ」。挨拶を通して出演者と学生の距離を縮めます。 2, 能、狂言の歴史を教科書の日本史に関連付けて話します。 3, 能狂言、ワキ方、囃子方など舞台での役割を説明した後、能と狂言の表現の違いについて比較できる形で子供たちに体験してもらいます。(笑う、喜ぶ、泣くなど) 4, 上記の流れから教科書にある狂言「柿山伏」のお話を通して、子供たちに狂言の一節を体験。その後、「柿山伏」鑑賞。 5, 能「殺生石」のお話。中国の物語が日本に伝わってきていること、それが日本文化として伝承されていることなども含めて社会科と関連付けてお話をしたのち、ポイントとなる動きについて子供に体験を促します。 6, お囃子の楽器体験、日本のリズムを子供たちが実際に体験します。(人数に関してはその時の希望時間によります) 7, 能「殺生石」鑑賞 8, 質問タイム 9, 終わりの挨拶 (監修:梅若実桜雪)</p>			公演時間	100 分
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし		該当コンテンツ名	
	該当事項がある 場合	権利者名	許諾確認状況		
演目概要	<p>・狂言「柿山伏」:大和の国(今の奈良県)大峰山・葛城山での修行を終わり、本国の出羽の国(今の山形県)羽黒山へ帰る旅の途中の山伏、修行のおかげで、空を飛ぶ鳥をも祈り落とす程の力を持つようになったと自慢しています。さて、今朝早く出発したので空腹になった山伏は、柿の実が実っているのを見つけ、何とか落とそうと試みますが、うまくいきません。そこで柿の木に登って実を食べていると、見回りにやってくる来た柿の木の持ち主に見つかってしまいました。怒った柿主はわざと、「あそこにいるのは鳥だ、猿だ、鳶だ」と言っていじめます。山伏は懸命にそれらの物真似をして何とか取り繕おうとします。しかし最後に、「鳶ならば羽を伸ばして鳴くものだ。もうそろそろ飛び立つ頃だ。」と言われ、思わず高い木の梢から飛んでしまいます。</p> <p>・能「殺生石」:奥州の玄翁和尚(ワキ)が修業の途中、那須野の原の大石に近づくと、里女(シテ)にその大石は触れれば鳥獣も死ぬと声をかけられます。玄翁が話を聞くと里女はこの石は国を滅ぼそうとした野干の精(妖狐)だと話します。その野干は玉藻の前に化け鳥羽法皇に近づきましたが、野干と見破られて殺され、この石となった今も殺生を続けていると話し、実は自分がこの石魂と明かし石の中に消えます。(中入) 玄翁が仏事を営むと石が割れ中から妖狐(シテ)が現れ、三国(インド・中国・日本)の王朝に危害を加えた事を語ります。その後この国の武士達に討たれ石魂となっても悪事を続けていますが、妖狐は玄翁の御法により悪事を行わない事を約束し姿を消します。</p>				
演目選択理由	<p>古典芸能との出会いは第一印象が最も大切であり、楽しく、わかりやすい曲目を検討した結果、教科書掲載されている狂言「柿山伏」と、中国と日本の伝記としても残っている九尾の狐の物語能「殺生石」を選択しました。比較的静かな印象がある能ですが、この曲は激しい動きもあり、限られた時間内で古典芸能の魅力を伝えることが可能な曲であることも採択理由のひとつです。また、みどころは後半、狐の精が岩を割って登場するシーンがありますが、当会が所有する「岩」の作り物は分解、持ち運びが容易なため、能楽堂以外の会場でも省略せず、上演が可能となります。今までも子供対象のワークショップで殺生石をし、子供たちにも好評であることも選定理由の一つです。静と動両面が能にあることを知ってもらう機会としています。</p>				
児童・生徒の共演、 参加又は体験の形態	<p>能の構え、摺り足等といった代表的な動きを学びます。・また、能狂言における独特な動きの感情表現を比較しながら体験します。・能面をつけて歩いてみます。(生徒代表20名の中から6名) (3)能の楽器に触れてみよう(生徒代表 小鼓3名、太鼓3名):10分・能の楽器(小鼓、太鼓)に触れてみます。道具に対して心をこめて扱うなどを学ぶ中で、日本の音楽と西洋の音楽の違いを学びます。(4)謡を謡ってみよう(全校生徒)能「殺生石」の一部分を全員で合唱します。プリントを元に謡曲の独特な節強いなどをレクチャーし、皆で謡います。(5)仕舞「殺生石」実演:5分 を見せて能を見たときに同じシーンを探してみようを促します。その際、子供たちにもその動きを席上で体験してもらいます。</p>				
出演者	<p>シテ方:★梅若長左衛門・★梅若紀彰・★松山隆雄★山崎正道・★小田切康陽・★角当直隆・★山中近晶・★松山隆之 ★川口晃平・内藤幸雄・伶以野陽子・小田切亮磨・山崎友正・鷹尾雄紀・梅若英寿(シテ方公演期間によりこのうち12選定) 狂言方:山本東次郎家(5名) ワキ方:2名 囃子方:4名 総合監修:☆梅若 実桜雪☆重要無形文化財各個認定(人間国宝)保持★重要無形文化財総合認定保持者 公演の出演者は人間国宝梅若 実に指導を受けた当法人所属のシテ方能楽師、また経験豊富な狂言方、囃子方、いずれも能楽の伎芸が高度なレベルに達した者と、若手で構成します。若手を投入することで、伝統文化＝古い、年齢層が高いというイメージから若い人も舞台に出る芸能であるというイメージを子供たちに感じてもらうことも目的としています。</p>				
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者:	22 名	運搬	積載量:	0.35 t
	スタッフ:	2 名		車長:	3 m
	合計:	24 名		台数:	1 台

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	12:00	12:00-13:15	13:30-15:10	10	15:20-16:00	16時00分

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	20日	20日	10日	15日	20日	
	11月	12月	1月	計	125日	
	15日	15日	10日			

※平日の実施可能日数目安をご記載ください。

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	体験代表者:2名程度
		鑑賞人数目安	体育館また鑑賞スペース最大



学校の体育館等のサイズにより、鑑賞用の舞台づくりは2パターン考えられる。

1. 舞台下に能舞台を制作
2. 舞台上に能舞台に近い空間を制作

鑑賞席は下記の図にあるように、体育館に席を並べるか、または、体育館に直接座る形となる。

座席がない場合、その空間を自由に分けて、子供たちを指導できるメリットがある。

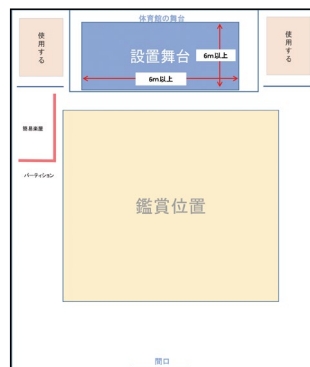
舞台上での公演の場合は、どの位置からも見やすいという利点がある。

泣く、笑うなどの表現はその場でできる体験は全体で行い、楽器等は代表生徒による体験となる。

代表生徒による体験の最中も、着席している子供たちが飽きないように声掛けや、座席で出来る日本のリズムの体験などを行っていく。

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。



【公演団体名 公益財団法人 梅若会 】

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	会場の入場可能人数
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> ご挨拶 能楽のはじまりは「あいさつ」。挨拶を通して出演者と学生の距離を縮めます。 能、狂言の歴史を教科書の日本史に関連付けて話します。スクリーンがあれば、そこに資料をうつしながら簡単なビジュアルと共に歴史紹介をします。 能狂言、ワキ方、囃子方など舞台での役割を説明 同じく、スクリーン使用または、実際の演者呼び、役割紹介を行います。 座っている場所で、全員で能と狂言の表現の違いについて比較できる形で子供たちに体験してもらいます。(笑う、喜ぶ、泣くなど) 上記の流れから教科書にある狂言「柿山伏」のお話を通して、子供たちに狂言の一節を体験。 能「殺生石」のお話。中国の物語が日本に伝わってきていること、それが日本文化として伝承されていることなども含めて社会科と関連付けてお話をしたのち、ポイントとなる動きについて子供に体験を促します。すり足体験、謡体験などを行います。また、先生に装束をはおってもらうなどの体験も希望があれば、行います。 お囃子の楽器体験、日本のリズムを子供たちが実際に体験します。(代表者のみ) 質問タイム。子供たちが思ったことをなんでも聞けるような時間にします。また、舞台をみた感想等もこちらから投げかけます。 終わりの挨拶。子供たちが楽しんでいる感覚を維持できるような形で締め、体験そのものの余韻がのこるように終わります。 <p>*所要時間90分(45分×2コマ・休憩10分) 基本上記の流れですが、学校側のご要望(参加学年・所要時間等)に可能な限り合わせる事が可能です。</p>		
<p>ワークショップのねらい</p>	<p>子供たちが自ら体感した事が鑑賞を通して再度体験できるようにすることで、「さっき見た!」「あの話のことだ」と舞台を通して考えることが出来るように誘導します。説明の中には、キーワードとなるものを入れていくことで、舞台を見ながら想像力を膨らませることのできるよう構成しています。また、社会、国語、音楽といった授業内容とリンクまたは比較することで、より立体的に文化について考える時間になることも狙いの一つです。このワークショップを体感し体験することで、子供たちが親にも文化を面白く話せるようにしていきたいと考えています。</p>		
<p>その他ワークショップに関する特記事項等</p>	<p>子供のワークショップを通じて、多くの先生方が「能が思ったより面白かった」「海外に出るためには、文化を知っておくのは良いことだと思った」とお話されます。子供の体験機会ではありますが、先生方が子供の様子を見ることで、今後どのような文化授業をしていくのかを感じていただければと思っています。そのために、ワークショップ終了後、先生方には能楽の考え方や成り立ちなどを授業で話せるような資料を配布させていただく事もできるようになっています。</p>		

本事業への申請理由

【公演団体名 公益財団法人 梅若会 】

<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢 子供たちに「本物」を感じる時間としたいと考えています。 動画などでは感じられない息遣いや空気感、そして何より舞台をみた後のワクワクした気持ちを持ってもらえるようにワークショップの構成を考え取り組んでいきます。 令和2年から4年にかけて子供のための伝統文化体験事業で、子供たちの想像力をひき出すプログラムを展開してきました。この経験をいかし、与えられた情報だけを楽しむのではなく、与えられていない情報を想像して、自らのイメージを創っていく作業の面白さを感じてもらいたいと考えています。そのために、まず何も情報を得ずに見ること、最後に知ってから見ること。この違いも明確にしていきます。</p>
	<p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫 事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫 1. 何よりも可能な限り、学校側の要望を第一に考え、ワークショップ、本公演の予定、内容等を考え計画している。具体的には参加学年をご希望の学年に限定したり、ワークショップ、本公演ともに公演時間の短縮も可能にするために、45分で完結するように単元をわけ、組み合わせによって様々なワークショップが可能なように作っています。 2. 事務局の体制はコロナ禍以前よりテレワークを導入しており、職員が事務局不在の場合でも電話、メール等の連絡が可能となっています。そのため緊急対処が必要な場合でも時間帯を問わず対応可能となっています。 3. 事務局と当法人の事業担当者との連絡は日常から電話、メール、ファクス等にてスムーズに行っており、すべての情報を事務局に集中し、学校をはじめ関連各所、出演者等への連絡はすべて事務局から発信しています。 4. 準備段階より定期的に調整会議を行い、計画に齟齬のないよう努める体制をとっています。</p>